



CHUGAI

Roche ロシュ グループ

2026年12月期 第2四半期決算説明会

2026年7月24日

中外製薬株式会社



創造で、想像を超える。

重要な注意事項

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

Core実績

当社はIFRS移行を機に2013年よりCore実績を開示しております。Core実績とは、IFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであります。なお、当社が非経常事項と捉える事項は、事業規模や範囲などの違いによりロシュと判断が異なる場合があります。当社ではCore実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

注：

- ・ 本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示。増減、％は億円単位で表示された数字で計算
- ・ 本資料の増減金額の表記は以下の通りです。

- ① 収益及び原価・費用の増減は、増益方向を「+」、減益方向を「△」で表示
- ② 増減率は金額の「増」「減」をそれぞれ「+」「△」で表示

Agenda

01 2026年第2四半期の総括

代表取締役社長 CEO

奥田 修

02 2026年第2四半期 開発パイプラインの状況

上席執行役員

プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長

草野 司

03 2026年第2四半期(中間期)連結決算(Core) 概要

取締役 上席執行役員 CFO

谷口 岩昭

2026年第2四半期の総括

代表取締役社長 CEO

奥田 修

Executive Summary

2026 2Q Key Financial Update

(中間期Core実績)

売上収益
6,633億円
前同比+14.7%
進捗率49.3%

製商品売上高
5,665億円
前同比+10.8%
進捗率51.5%

その他の売上収益
968億円
前同比+44.5%
進捗率39.5%

営業利益
3,291億円
前同比+21.0%
進捗率49.1%

営業利益率
49.6%

Financial Overview :

- 増収増益の決算。通期予想達成に向けて順調に進捗
- 製商品売上高は国内外ともに順調に推移。ヘムライブラ・NEMLUVIO*輸出が牽引
- その他の売上収益は一時金収入、およびヘムライブラ・NEMLUVIOのロイヤルティ収入により大幅増

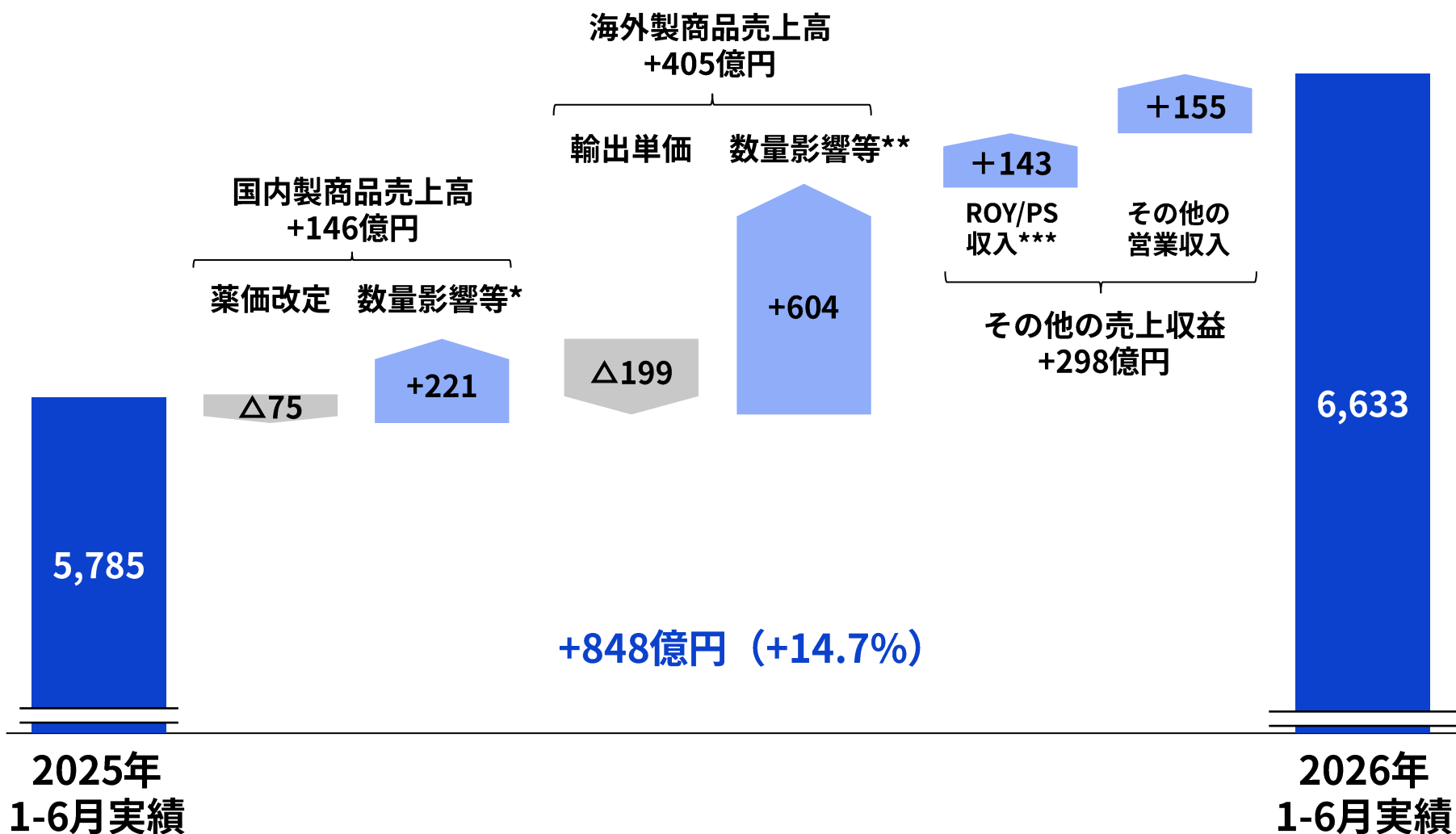
Business Overview :

- 国内で8件の承認申請を実施し、過去最多の申請計画達成に向けて順調に進捗
- 次世代の成長ドライバーとして期待するNXT007について、2つのP3試験を開始

*NEMLUVIO (nemolizumab)、ガルデルマへ導出

Topline Overview

【億円】



- 国内売上
薬価改定や後発品浸透等の影響を受けたものの、主力品（バビースモ、ポライビー、エンスプリング、フェスゴ）、新製品（エレビジス、ルンスミオ）が伸長し、前年比で増加
- 海外売上
輸出単価低下の影響はあったものの、主にロシュ向けのヘムライブラ輸出、ガルデルマ向けのNEMLUVIO輸出の数量増加や、為替影響により、前年比で増加
- その他の売上収益
一時金収入の大幅な増加に加え、主にヘムライブラ、NEMLUVIOに関するロイヤルティ収入の増加により前年比で大きく増加

自社創製グローバル新製品アップデート

■ 短中期の成長の鍵を握る二つの自社創製グローバル新製品の市場浸透が進む

ガルデルマへ導出

NEMLUVIO：米国を中心に各国で浸透が進む



※国内製品（ミチーガ）と承認されている適応症の範囲、剤形等は異なります

- 輸出売上とロイヤルティ収入により当社収益成長を牽引
- 2026上半期のガルデルマ売上実績は**433mUSD**であり、良好なモメンタムが継続
- 米国における新規患者処方(NBRx¹)シェアは、**結節性痒疹約42%、アトピー性皮膚炎約9%**
- 米国以外でも良好な立ち上がり。加えて各国での承認審査も進んでおり、さらなる成長を期待

イーライリリーへ導出

FOUNDAYO：保険カバレッジ拡大中



※国内未承認

- 第二四半期より**ロイヤルティ収入**の計上開始
- **GLP-1製剤の使用経験がない方**を中心に処方が進んでおり、**経口肥満症薬の市場は拡大傾向**
- イーライリリーの直販ルートに加えて、民間保険やメディケアを通じて**アクセスが拡大中**
- 本年中の米国での2型糖尿病への適応拡大および米国以外でも順次上市を期待

自社創製品の早期開発の進捗

■ 中長期の成長ドライバーとして期待する自社創製品の早期開発が着実に進展

低分子プロジェクト

REVN24：P2試験へのGoクライテリア達成

プロジェクトの状況：

- 健康成人を対象としたP1試験において**bPoC***を確認
- **心臓手術後合併症**を対象に**P2試験準備に着手**

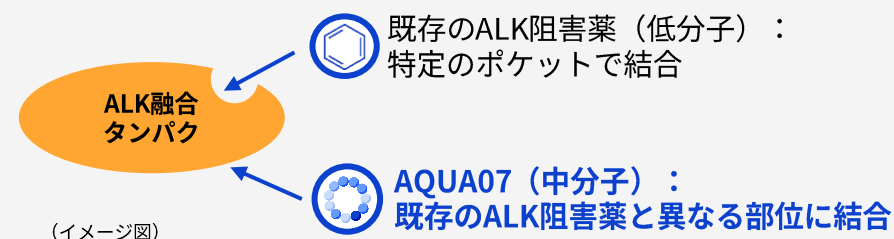
心臓手術後合併症について：

- 心臓手術後、約2/3の患者さんが術後合併症を発症¹
- 本疾患のアンメットニーズは高いものの、承認されている医薬品はない

中分子プロジェクト

AQUA07：3つ目の中分子として臨床入り

- 非臨床データに基づいて本剤のポテンシャルが評価され、2026年5月に**米国FDAよりFast Track指定**を取得
- **ALK陽性非小細胞肺がん**を対象に、**まもなくP1試験の投与開始**
- 従来の低分子が結合しにくい位置にも高い特異性で結合できる当社の中分子の特長を活かした**アロステリック阻害剤**
- 1st lineでの既存薬との併用、および耐性ができた2nd line以降への有効性が期待される



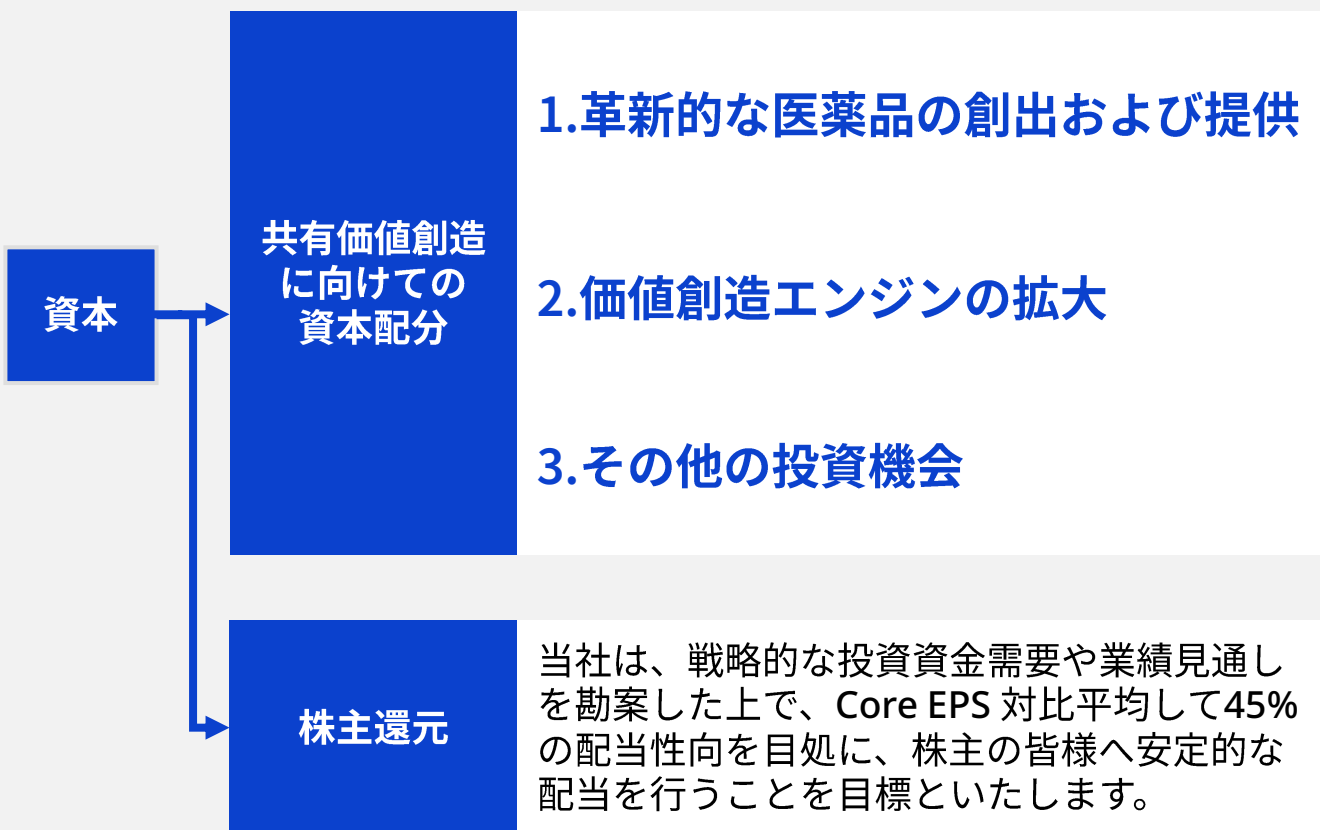
*biological PoC: 想定される薬剤の作用機序が、健康成人の生体内で機能しているか証明すること。なお、本剤の作用機序は開示していません

1. J Card Surg. 2021;36(6):2045–2052.

共有価値創造に向けた戦略的な資本配分と株主還元

- 資本配分に関する基本方針に基づき、持続的な成長に必要な事業投資に従来以上に積極的に取り組むとともに、安定的な株主還元を継続

資本配分に関する基本方針



※資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 (<https://www.chugai-pharm.co.jp/ir/share/capitalcost.html>)

戦略投資部※新設

- M&A／出資等の戦略投資の方針策定、実行体制強化、個別案件の検討と推進の主導

事業開発部

- 製品ポートフォリオ・自社創薬技術の拡充と最適化を目的とした製品・技術の導入・導出・譲渡およびアライアンスマネジメント

Chugai Venture Fund

- 創薬プラットフォームへの投資を通じ、グローバルで最先端のサイエンスへの知見を深耕

安定的な配当を継続する方針は不変。本年は年間で1株あたり132円、普通配当として10年連続*での増配の予想

※2026年予想：Core配当性向44.7%（単年）

*2020年以前の年間配当金額は、2020年7月1日を効力発生日として行った普通株式1株につき3株の割合での株式分割を考慮

2026年第2四半期 開発パイプラインの状況

上席執行役員 プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長

草野 司

2Qトピックス (1/2)

承認	アレセンサ	ALK融合遺伝子陽性の進行・再発の固形がん（日本）	2026年5月
	アバスチン	神経線維腫症2型	2026年6月
	リツキサン	成人期発症の頻回再発型あるいはステロイド依存性のネフローゼ症候群	2026年6月
申請	エンスプリング	甲状腺眼症（TED）（米国）・優先審査指定	2026年6月
	ガザイバ	特発性ネフローゼ症候群	2026年5月
	ギレデストラント	ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能または再発乳がん	2026年5月
		ホルモン受容体陽性かつHER2陰性乳がんにおける術後薬物療法	2026年5月
	テセントリク	局所進行の食道がんにおける根治的化学放射線療法後の維持療法	2026年6月
	ラニビズマブ (Port Delivery Platform with ranibizumab) *	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性（nAMD）	2026年6月
		糖尿病黄斑浮腫（DME）（いずれも眼内インプラント充填液）	2026年6月
	スパルセンタン	IgA腎症	2026年6月
試験開始	NXT007/zemocimig	血友病A（ZEBRHA2試験：ヘムライブラとの比較）、（ZEBRHA1試験：血液凝固第VIII因子製剤との比較）	P3（2026年4月、5月）
	enicepatide	肥満症（Enith2試験：2型糖尿病合併）	P3（2026年5月）

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）、紫：第三者導入品（日本開発販売）*医療機器部分 2026年3月申請

2Qトピックス (2/2)

パイプライン削除	トミネルセン	ハンチントン病：開発中止	—
Readout	AVMAPKI*	P1b/2a RAMP205試験（転移性膵管腺がん）	2026年6月
	divarasib	P3 Krascendo 1試験（非小細胞肺癌 [二次治療]）：主要評価項目達成	2026年7月
学会発表	ピアスカイ	ERA：P3 COMMUTE-a試験、-p試験（非典型溶血性尿毒症症候群（aHUS））	2026年6月
	emugrobart	Cure SMA：P2 MANATEE 試験 Part 1（脊髄性筋萎縮症（SMA））	2026年6月
		IRC on FSHD：P2 MANOEUVRE 試験（顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー（FSHD））	2026年6月
希少疾病用医薬品 指定	NXT007/zemocimig	先天性血友病A患者における出血傾向の抑制	2026年5月
	バミキバルト	非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫	2026年6月
	ガザイバ	ループス腎炎	2026年6月

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）*導出先のVerastem Oncologyが実施

ERA: European Renal Association、Cure SMA: Annual SMA Conference、IRC on FSHD: International Research Congress on FSHD

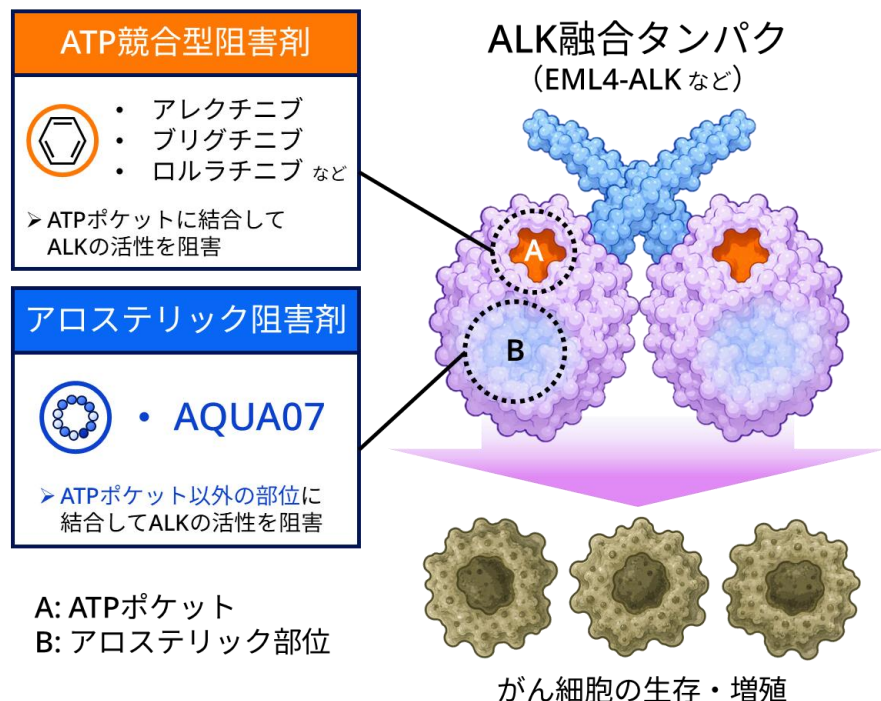
2026年 主要なR&Dイベント

	開発品（製品）名	予定適応症 / 試験名	進捗状況	
承認 予定品目	アレセンサ	ALK融合遺伝子陽性の進行・再発の固形がん（日本）	承認	○
	ルスミオ+ポライビー	再発又は難治性の大細胞型B細胞リンパ腫	承認	○
P3/ピボタル試験 Readout	エンズプリング	METEOROID試験：ミエリオリゴデントサイト糖タンパク質抗体関連疾患（MOGAD）	PE達成	○
	divarasib	Krascendo 1試験：非小細胞肺癌（二次治療）	PE達成	○
	ギレデストラント	persevERA試験：ホルモン受容体陽性乳がん（一次治療）	PE未達	×
	ルスミオ	CELESTIMO試験：濾胞性リンパ腫（二次治療）		
	セーファキセルセン	IMAGINATION試験：IgA腎症		
P2試験 Readout	emugrobart +エブリスディ	MANATEE試験：脊髄性筋萎縮症（SMA）	開発中止	×
	emugrobart	MANOEUVRE試験：顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー（FSHD）	開発中止	×
		GYMINDA試験：肥満症		
試験開始		<u>ZEHRHA1試験（P3）：血友病A（血液凝固第VIII因子製剤との比較）</u>	試験開始	○
	NXT007/zemocimig	<u>ZEHRHA2試験（P3）：血友病A（ヘムライブラとの比較）</u>	試験開始	○
		P3試験：血友病A（小児）		
	DONQ52	P2試験：セリアック病	試験開始	○

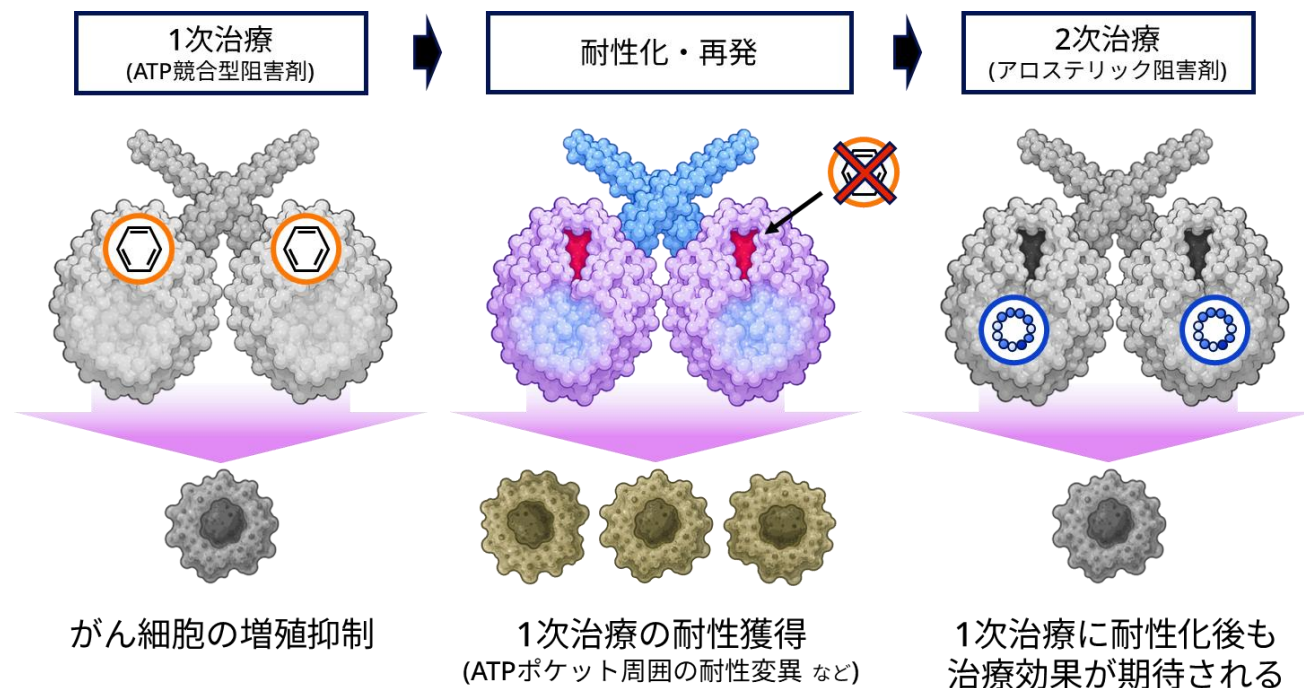
AQUA07 (アロステリックALK阻害剤)

- 中分子創薬技術“SnipeTide”を適用し、臨床入りした3つ目のプロジェクト。ALK陽性非小細胞肺癌に対してまもなく治験薬投与開始
- 従来のATP競合型阻害剤と異なり、ATPポケットではないアロステリック部位に中分子ならではの結合をすることで、がん細胞の増殖に関わるALKの活性を阻害
- 作用機序の違いから、既存薬に対する耐性獲得症例などに対する有効性や、1次治療での既存薬との併用による薬効の増強などが期待
- 本剤のポテンシャルが評価され、2026年5月に米国FDAよりFast Track指定を取得

ALK融合タンパクに対する阻害剤の結合部位のイメージ



既存治療薬に耐性化した症例に対してAQUA07に期待される効果



ピアスカイ：非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS)

P3 COMMUTE-a試験 (成人及び青年期)、-p試験 (小児)：2026年欧州腎臓病学会

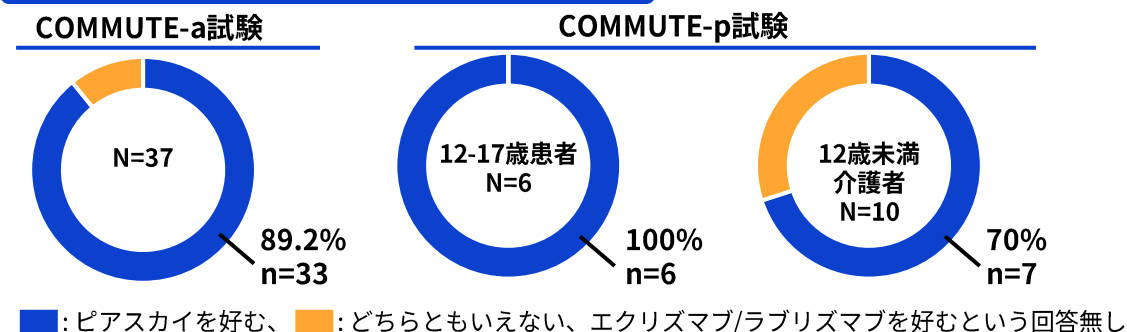
- 主要評価項目である未治療患者における25週時点での完全寛解率はいずれの試験も良好な結果
- エクリズマブ／ラブリズマブからの切替え患者全例で完全寛解の維持を両試験で確認
- ベースラインで透析中の未治療患者全例において透析からの離脱を達成
- 安全性プロファイルは既知のものと同様に、新たな安全性の懸念は認められなかった
- 切替え患者における治療選好度において、患者の85%以上、介護者の70%以上がピアスカイを好む結果

	対象患者	主要投与期間: 24週間
B042353 COMMUTE-a	aHUS患者 12歳以上かつ 40kg以上 	未治療群 補体阻害剤による治療歴なし N=41
		切替え群 Ecu／Ravいずれかからの切替え N=41
B042354 COMMUTE-p	aHUS患者 生後28日以上 18歳未満かつ 5kg以上	未治療群 補体阻害剤による治療歴なし N=21
		切替え群 Ecu／Ravいずれかからの切替え N=20

	評価項目	COMMUTE-a	COMMUTE-p
主要評価	完全寛解率 (未治療群)	59.5%* (43.5-73.7)	70.6%** (46.9-86.7)
副次評価	完全寛解維持率 (切替え群)	100% (91.4-100)	100% (83.9-100)

*事前に設定した試験成功の閾値は、「点推定値が40%以上」であった。40%はラブリズマブの臨床試験における未治療患者の完全寛解率の95%CI下限を参照して設定 (Rondeau E, et al. Kidney Int 2020)
 **成功の閾値の事前規定無し

治療選好度：探索的評価項目 (切替え群)



aHUS: atypical hemolytic uremic syndrome (血小板減少、溶血性貧血、急性腎障害を特徴とする指定難病)
 完全寛解: 血小板数 $\geq$ 正常域下限 & 乳酸脱水素酵素 $\leq$ 正常域上限 & 血清Cr値のベースラインからの25%以上の低下
 完全寛解維持: ベースラインから25週時まで完全寛解を維持した割合
 出典: 欧州腎臓病学会 (ERA) 2026における両試験に関わる発表 (演題番号: Abstract No. ERA26-LBCT-153、ERA26-LBCT-173) 本資料は、上記学会発表の内容を基に当社が作成
 Ecu: エクリズマブ、Rav: ラブリズマブ

DONQ52開発ステータス

- Go/No-Go判断実施による開発加速。セリアック病を対象に、米国、オーストラリア、ニュージーランドでP2a試験実施中
- 25種類以上のグルテンペプチドに結合するマルチスペシフィック抗体
- T細胞受容体とHLA-DQ2.5/グルテンペプチド複合体の結合を中和することでT細胞の活性化を阻害

P1a/b試験

2022年9月～

学会発表検討中

対象：

症状が良好にコントロールされているセリアック病患者

目的：

単回投与漸増（PartA）、反復投与漸増（PartB）により、安全性と忍容性を評価

P1c試験

2024年7月～

学会発表検討中

対象：

症状が良好にコントロールされているセリアック病患者

目的：

DONQ52投与後に3日間の小麦摂取を実施し、グルテン依存的な免疫反応の抑制を評価

P2a試験

2026年4月～

対象：

グルテンフリー食（GFD）を試みているものの腸管障害や症状が持続しているセリアック病患者

目的：

組織傷害および症状の改善をプラセボ対比で評価



DONQ52のターゲット：

世界人口に対する有病率が約1%¹かつ治療薬が存在しないセリアック病への貢献

世界で約8,000万人¹、米国で約300万人²、欧州で約600～700万人^{1,3}の患者が存在すると推定される。日本での有病率は低いとされている



DONQ52のポテンシャル：

GFD併用下での疾患コントロールを実現し、慢性症状・腸管障害から急性グルテン曝露症状まで、幅広い患者ニーズをカバーする可能性を追求

今後の申請予定（P2以降開発品・製品）

申請中

エンズプリング (SA237/RG6168) 甲状腺眼症（米国）★	ラニbizumab(Port Delivery Platform with ranibizumab)* (RG6321) nAMD ★	テセントリク (RG7446) 局所進行の食道がん (根治的化学放射線 療法後の維持療法) ★
ギレドストラット酒石酸塩 (RG6171) 乳がん（アジュバント）★	ラニbizumab(Port Delivery Platform with ranibizumab)* (RG6321) DME ★	ガザイバ (RG7159) 特発性ネフローゼ症候群★
ギレドストラット酒石酸塩 (RG6171) 手術不能または 再発乳がん ★	テセントリク (RG7446) MRD陽性膀胱がん (アジュバント)	スパルセンタン IgA腎症 ★

divarasib (RG6330) 2L NSCLC ★	ガザイバ (RG7159) ループス腎炎
エンズプリング (SA237/RG6168) 甲状腺眼症（米国除く）	ルンスミオ (RG7828) 2L 濾胞性リンパ腫
ピアスカイ (SKY59/RG6107) aHUS	グローフィタマブ (RG6026) r/r DLBCL
エンズプリング (SA237/RG6168) MOGAD	バミキバルト (RG6179) UME

afimkibart (RG6631) 潰瘍性大腸炎	ガザイバ (RG7159) 腎症を伴わない 全身性エリテマトーデス
ヘムライブラ (ACE910/RG6013) III型フォン・ ヴィレブランド病	テセントリク+アバスチン (RG7446+RG435) 肝細胞がん (intermediate ステージ)
エンズプリング (SA237/RG6168) 自己免疫介在性脳炎	inavolisib (RG6114) PIK3CA 遺伝子変異陽性 乳がん（内分泌療法 抵抗性）★

自社創製品（グローバル開発） ロシュ導入品（日本開発販売） 第三者導入品（日本開発販売）	新規 適応拡大	★ 新規追加 ★ 申請年変更
バビースモ (RG7716) 非増殖糖尿病網膜症	afimkibart (RG6631) クローン病	
グローフィタマブ (RG6026) 再発または難治性の マントル細胞リンパ腫	セーファキセルセンナトリウム (RG6299) IgA腎症	エレビジス (RG6356) DMD(歩行不能)
inavolisib (RG6114) PIK3CA 遺伝子変異陽性・ HER2陽性乳がん [一次治療]	inavolisib (RG6114) PIK3CA 遺伝子変異陽性 乳がん（内分泌療法 感受性）[一次治療] ★	ルンスミオ (RG7828) 未治療の濾胞性リンパ腫
グローフィタマブ (RG6026) 初発大細胞型B細胞リンパ腫 (ボライビー併用)	divarasib (RG6330) 1L NSCLC	enicepatide (RG6640) 肥満症
zemocimig (NXT007/RG6512) 血友病A	emugrobart (GYM329/RG6237) 肥満症	zilebesiran (RG6615) 高血圧症
	DONQ52 セリアック病	trontinemab (RG6102) アルツハイマー病

2026年

2027年

2028年

2029年以降

aHUS：非典型溶血性尿毒症症候群、DME：糖尿病黄斑浮腫、DMD：デュシェンヌ型筋ジストロフィー、MOGAD：ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質抗体関連疾患、MRD：分子の残存病変、nAMD：中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性、NSCLC：非小細胞肺癌、r/r DLBCL：再発または難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫、UME：非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫

*医療機器部分2026年3月申請

第三者導出プロジェクトの進展 (1/2)

一般名/開発コード	作用機序	導出先	導出先の権利範囲	開発ステージ	予定適応症	プロジェクトの状況
avutometinib /VS-6766	RAF/MEK clamp (遮断)	Verastem Oncology	全世界の製造・開 発・販売の独占的 実施権	米国：上市済み	KRAS変異陽性の再 発低悪性度 漿液性卵巣がん (LGSOC)	● 25年5月に迅速承認制度のもと承認取得
				グローバル：P3★	再発LGSOC	● RAMP 301 trial (P3) 主要解析のための患者登録を完了、日本 での患者登録継続中★
				米国：P1/2	転移性膵管腺がん (一次治療) (mPDAC)	● RAMP 205 trial (P1/2、ゲムシタビン・nab-パクリタキセルお よびdefactinibとの併用)：2026年6月に報告された試験の更新 データ開示 (29例評価可能、確定ORR 52%)、患者フォロー アップ継続中★
ネモリズマブ	抗IL-31RA ヒト化モノク ローナル抗体	Galderma	日本を除く全世界 の開発・販売の独 占的实施権	海外： 上市済み (米国/欧州、お よびその他の市場)	アトピー性皮膚炎 (AD) /結節性痒 (PN)	● AD/PNを対象としたグローバルピーク売上高の見通しを 2bnUSD超から4bnUSD超へと引き上げ* ● AD承認取得: 24年12月 (米国)、25年2月 (欧州) ● PN承認取得: 24年8月 (米国)、25年2月 (欧州)
				海外：P2	原因不明の慢性そう 痒症 (CPUO)	● 25年4Q開始 ● 患者登録完了★
				海外：P2	全身性強皮症 (SSc)	● 26年2Q開始 ★
一般名未定/AP306 (EOS789)	経口リン酸輸送 体阻害剤	Alebund Pharmaceut icals	全世界の製造・開 発・販売の独占的 実施権	中国/米国：P2b★	高リン血症	● P2試験：投与終了時点において、AP306群はベースラインに比し 臨床的に意義のある血清中リン濃度の減少を示した ● 中国において、慢性腎臓病患者における高リン血症に対する治療 薬として、Breakthrough Therapy指定 ● 中国以外の地域におけるAP306の開発推進を目的として、DaVita (腎臓ケアのグローバルリーディングカンパニー) 等と合併会社 (R1 therapeutics) を設立 ● 米国と中国の複数の臨床施設でグローバルP2b試験 (NCT06712654)開始 ★

第三者導出プロジェクトの進展 (2/2)

一般名/開発コード	作用機序	導出先	導出先の権利 範囲	開発ステージ	予定適応症	プロジェクトの状況
オルホルグリプロン カルシウム /LY3502970	非ペプチド型 経口GLP-1受 容体作動薬	Eli Lilly and Company	全世界の開 発・販売権	米国：上市済み	肥満症	● 2026年2Qに米国FDAより承認取得
				グローバル： P3 欧州/日本：申請		● 申請：2025年4Q（日本）、2026年1Q（欧州） ● P3試験（ATTAIN-1）＊：72週時点において、ルルグリア® の投与群は、最高用量で平均12.4%の体重減少が認められた。 ● P3試験（ATTAIN-2）＊：肥満症または過体重の2型糖尿病の成人に対して、72週時点において、ルルグリア® の投与群は、最高用量で平均10.5%の体重減少が認められた。 ● P3試験（ATTAIN-MAINTAIN）＊：体重維持に関する主要評価項目を達成し、52週時点において、セマグルチド® からルルグリア® に切り換え後の体重差の平均は 0.9kg、ルルグリア® からルルグリア® に切り換え後の体重差の平均は 5.0 kgであった。
				グローバル： P3 欧州：申請	2型糖尿病	● 申請：2026年1Q（欧州） ● P3試験（ACHIEVE-1）＊：40週時点において、ルルグリア® の投与群は、HbA1Cについて平均1.3～1.6%の低下と最高用量で7.9%の体重減少が認められた。 ● P3試験（ACHIEVE-2）＊：主要評価項目を達成し、タパグリフロジンに対する優越性を示した。40週時点において、ルルグリア® の投与群は、HbA1Cについて平均1.3～1.7%の低下が認められた。 ● P3試験（ACHIEVE-3）＊：主要評価項目を達成し、経口セマグルチド® に対する優越性を示した。52週時点において、ルルグリア® の投与群は、HbA1Cについて平均1.9～2.2%の低下と最高用量で9.2%の体重減少が認められた。 ● P3試験（ACHIEVE-4）＊：インスリン グリキソンとの比較において、主要評価項目である主要心血管イベント（MACE-4）の初回発生までの期間について非劣性を達成した。 ● P3試験（ACHIEVE-5）＊：40週時点において、ルルグリア® の投与群は、HbA1Cについて平均1.5～2.1%の低下が認められた。
				グローバル：P3	睡眠時無呼吸症候群	● 24年4Q開始
				グローバル：P3	高血圧症	● 25年3Q開始
				グローバル：P3	変形性関節症	● 25年4Q開始
				グローバル：P3	腹圧性尿失禁	● 25年4Q開始
				グローバル：P3	主要心血管イベント （MACE）の発生に対するルルグリア® の効果の評価**	● 25年4Q開始
				グローバル：P3	末梢動脈疾患	● 26年1Q開始

*安全性プロファイルは注射型GLP-1製剤と概ね同様であった **アテローム性動脈硬化性心血管疾患および/または慢性腎臓病患者

2026年第2四半期(中間期) 連結決算(Core)概要

取締役 上席執行役員 CFO

谷口 岩昭

損益 1-6月 前年同期比

【億円】	2025年	2026年	増減	
売上収益	5,785	6,633	+ 848	+ 14.7%
製商品売上高	5,114	5,665	+ 551	+ 10.8%
国内	2,233	2,379	+ 146	+ 6.5%
海外	2,881	3,286	+ 405	+ 14.1%
その他の売上収益	670	968	+ 298	+ 44.5%
売上原価	△ 1,752	△ 1,959	△ 207	+ 11.8%
製商品原価率	34.3%	34.6%	+0.3pts	-
研究開発費	△ 863	△ 902	△ 39	+ 4.5%
販売費及び一般管理費	△ 454	△ 490	△ 36	+ 7.9%
その他の営業収益（費用）	4	9	+ 5	+ 125.0%
営業利益	2,720	3,291	+ 571	+ 21.0%
営業利益率	47.0%	49.6%	+2.6pts	-
金融収支等	△ 15	96	+ 111	-
法人所得税	△ 770	△ 1,004	△ 234	+ 30.4%
中間利益	1,935	2,384	+ 449	+ 23.2%
EPS（円）	117.57	144.84	+ 27.27	+ 23.2%

■ 国内

薬価改定や後発品浸透等の減少影響を受けたものの、主力品や新製品の伸長により増加

■ 海外

ヘムライブラおよびNEMLUVIOが増加

■ その他の売上収益

一時金収入の大幅な増加および主にヘムライブラ、NEMLUVIOに関するロイヤルティ収入により大幅に増加

■ 売上原価

製品別売上構成比の変化等により、製商品原価率が上昇

■ 研究開発費

創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展に伴い増加

■ 販売費及び一般管理費

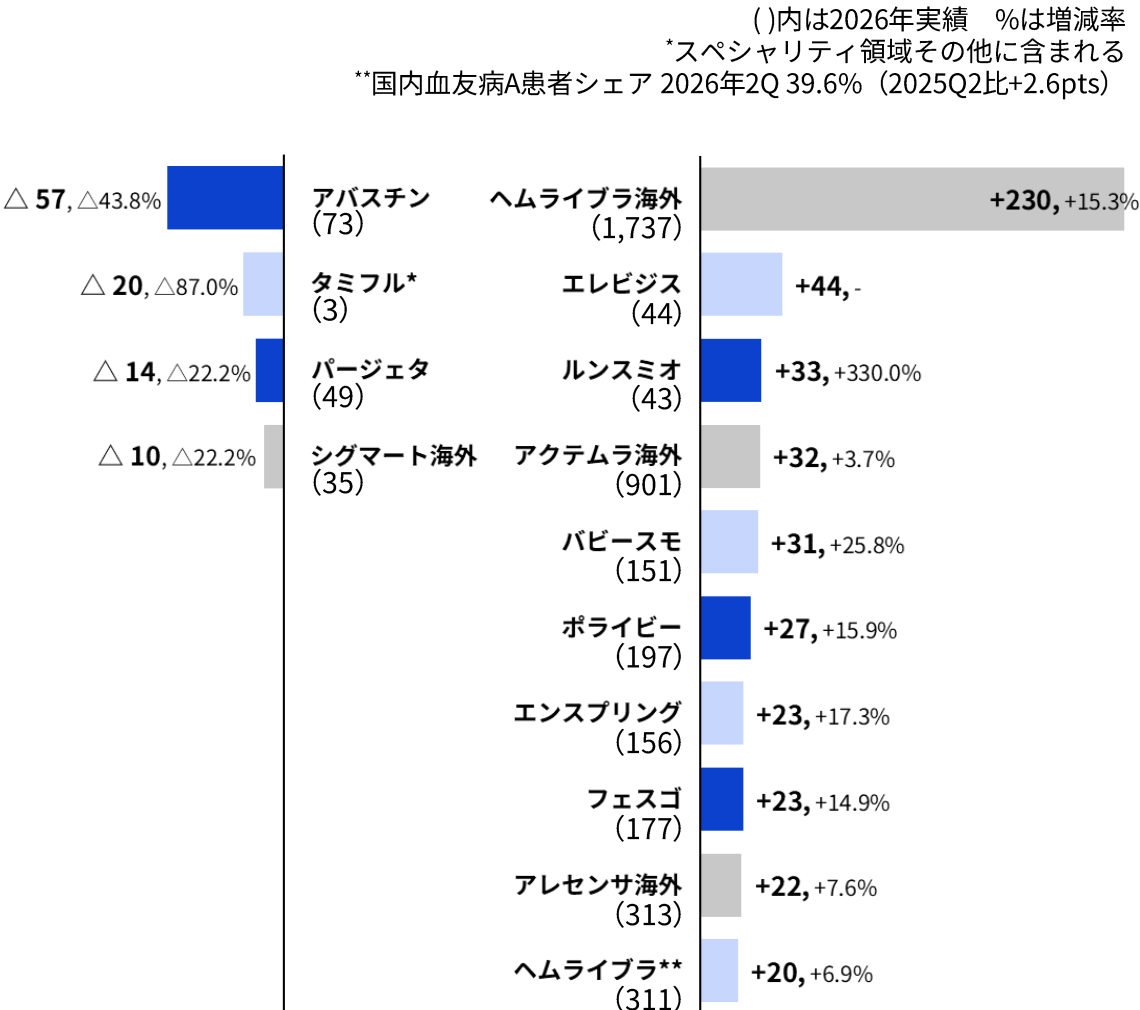
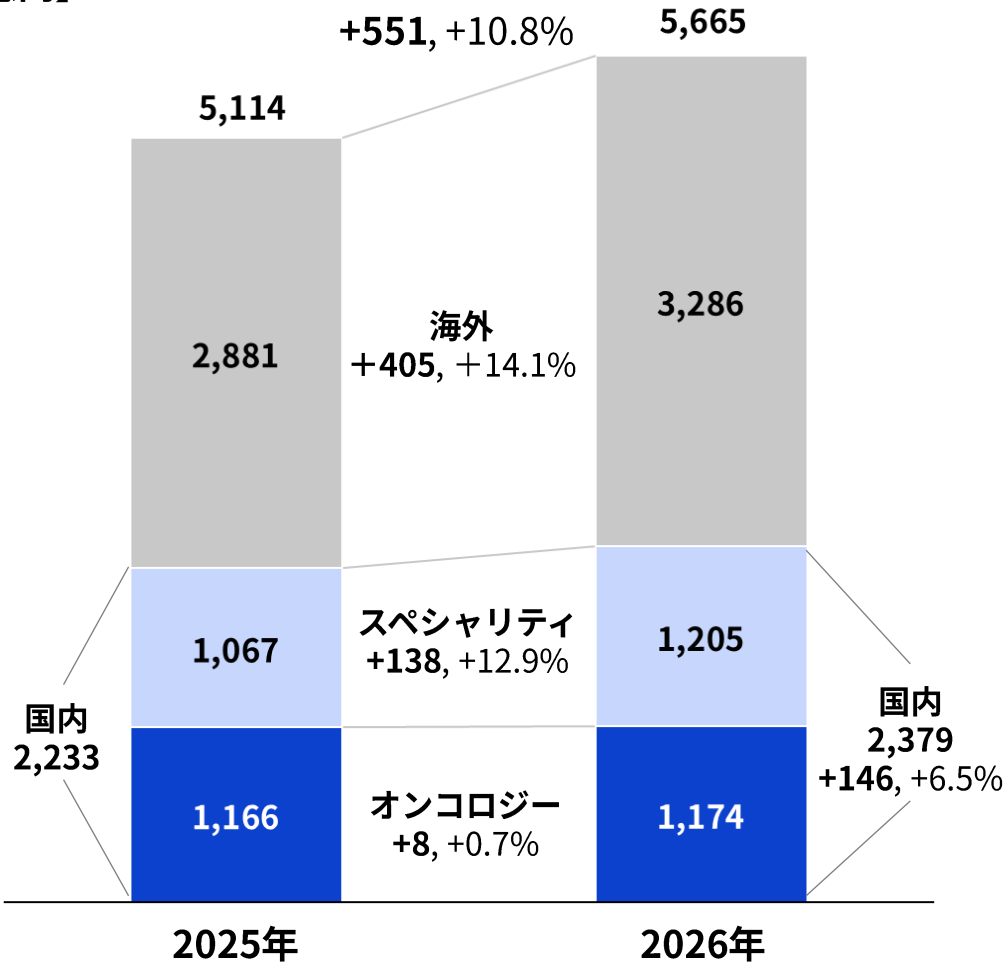
法人事業税（外形標準課税）および一時的な諸経費等の増加

製商品売上高 1-6月 前年同期比

領域別売上高の比較

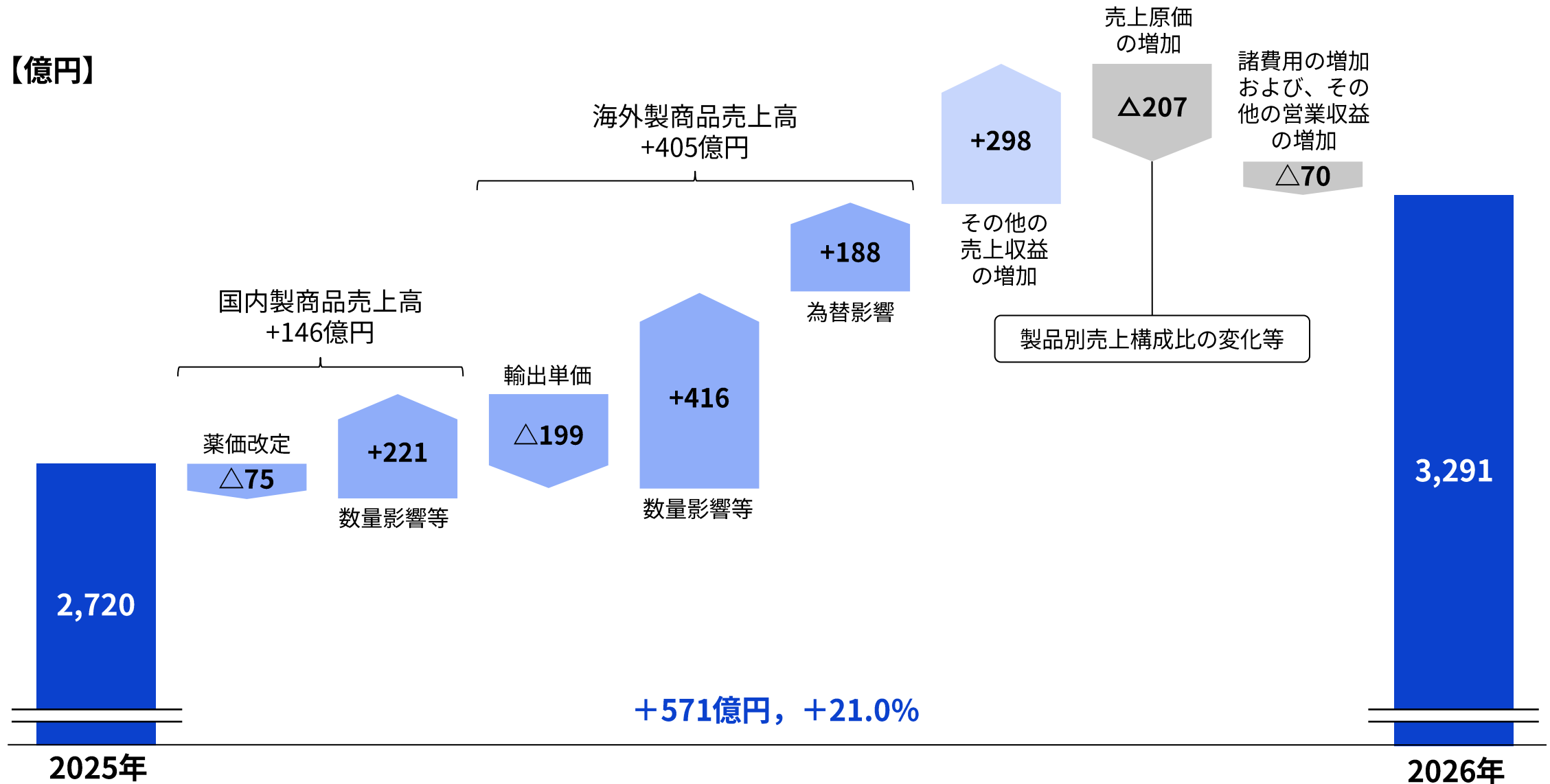
主な製商品売上高の増減

【億円】



営業利益 1-6月 増減

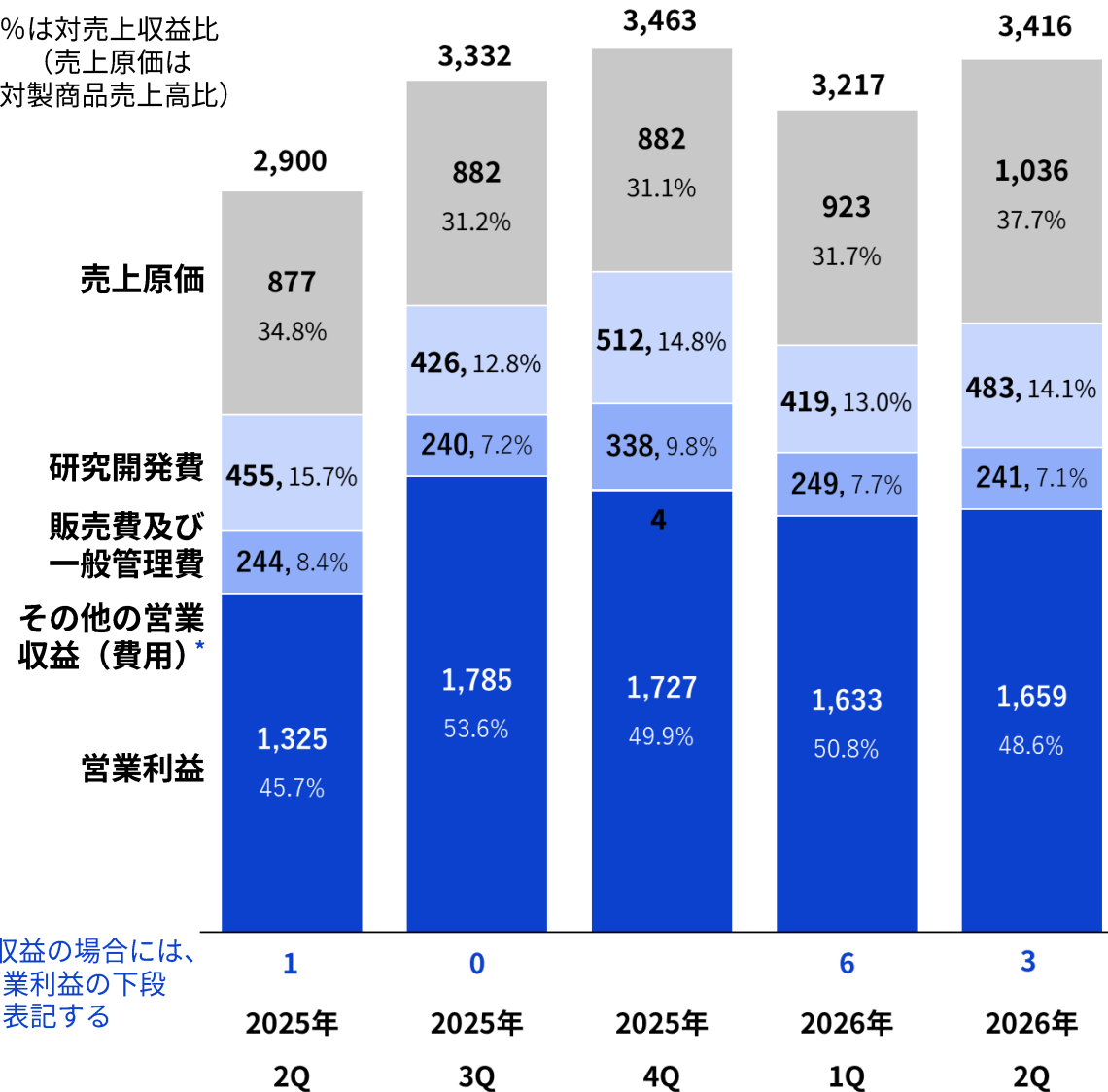
【億円】



損益の構成 四半期推移

【億円】

%は対売上収益比
(売上原価は
対製商品売上高比)



■前年同四半期（2025年2Q）比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により上昇

研究開発費は創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展等に伴い増加

販売費及び一般管理費は前年同四半期並み

その他の営業収益（費用）は前年同四半期並み

営業利益 +334億円, +25.2%

■前四半期（2026年1Q）比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により上昇

研究開発費は創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展等に伴い増加

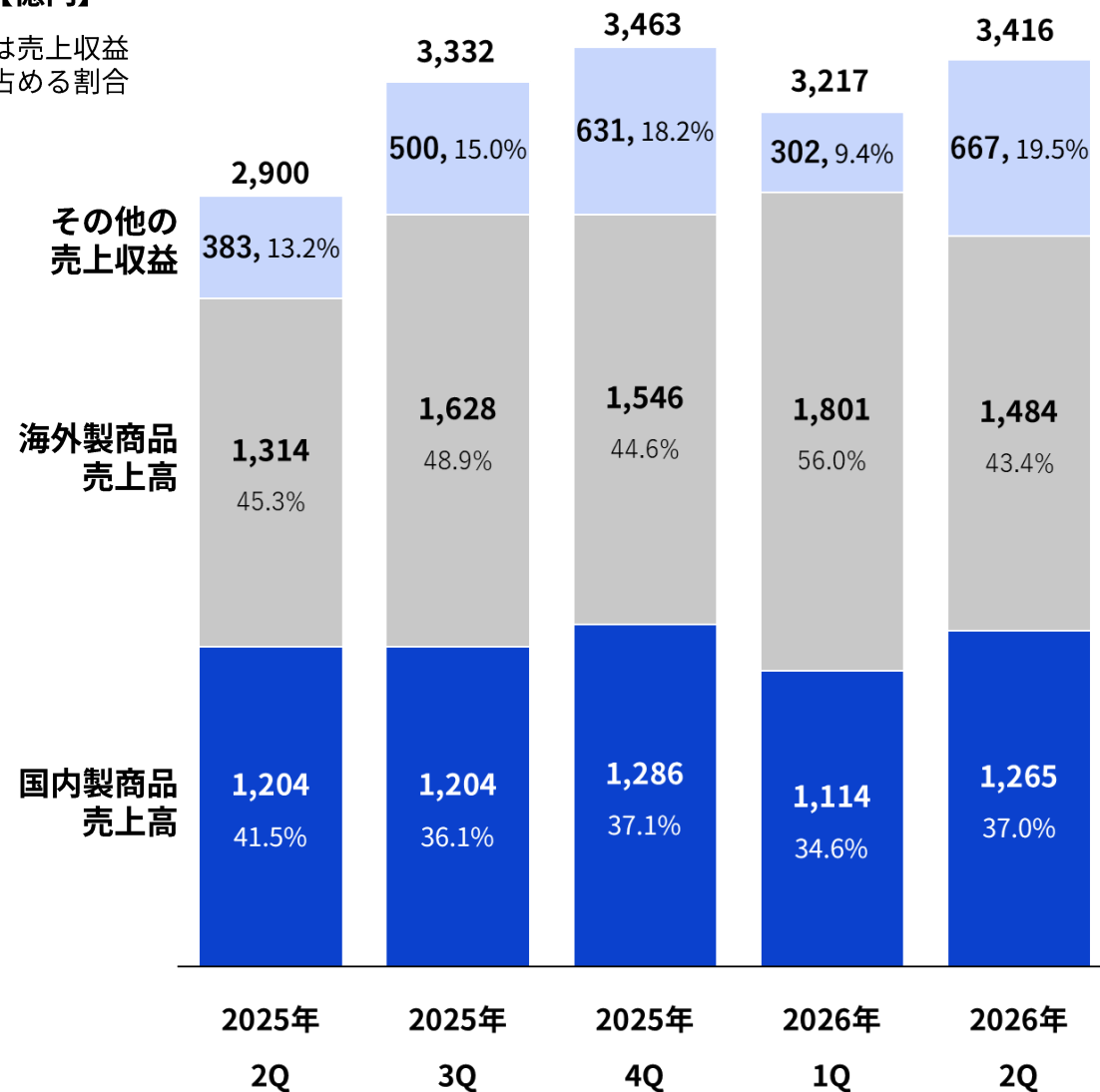
販売費及び一般管理費は前四半期並み

その他の営業収益（費用）は前四半期並み

営業利益 +26億円, +1.6%

売上収益の構成 四半期推移

【億円】

 %は売上収益
に占める割合


■前年同四半期（2025年2Q）比

国内は新製品の好調な推移により増加

海外は出荷タイミングの影響によりアクテムラが増加

その他の売上収益は一時金収入の大幅な増加および

ヘムライブラのロイヤルティ収入が増加

■前四半期（2026年1Q）比

国内は主力品や新製品の好調な推移により増加

海外は出荷タイミングの影響によりヘムライブラが大幅に減少

その他の売上収益はヘムライブラのロイヤルティ収入

および一時金収入が大幅に増加

損益 1-6月 予想比

【億円】	実績	期初予想		2025年
	2026年 1-6月	2026年 1-12月	進捗率	進捗率*
売上収益	6,633	13,450	49.3%	46.0%
製商品売上高	5,665	11,000	51.5%	47.4%
国内	2,379	4,980	47.8%	47.3%
海外	3,286	6,020	54.6%	47.6%
その他の売上収益	968	2,450	39.5%	37.2%
売上原価	△ 1,959	△ 3,835	51.1%	49.8%
製商品原価率	34.6%	34.9%	-	-
研究開発費	△ 902	△ 1,900	47.5%	47.9%
販売費及び一般管理費	△ 490	△ 1,020	48.0%	44.0%
その他の営業収益（費用）	9	5	180.0%	-
営業利益	3,291	6,700	49.1%	43.6%
営業利益率	49.6%	49.8%	-	-
当期（中間）利益	2,384	4,850	49.2%	42.9%
EPS（円）	144.84	295.00	49.1%	42.9%

- 国内
概ね想定通りの進捗
- 海外
概ね想定通りの進捗
- その他の売上収益
概ね想定通りの進捗
- 売上原価
1-6月の製商品売上原価率としては概ね想定通り
- 研究開発費
概ね想定通りの進捗
- 販売費及び一般管理費
概ね想定通りの進捗

*2025年通期実績に対する2025年 1-6月実績の進捗率

製商品売上高 1-6月 予想比

【億円】	実績	期初予想		2025年 進捗率*
	2026年 1-6月	2026年 1-12月	進捗率	
製商品売上高	5,665	11,000	51.5%	47.4%
国内	2,379	4,980	47.8%	47.3%
オンコロジー領域	1,174	2,592	45.3%	47.3%
テセントリク	293	611	48.0%	47.6%
ポライビー	197	425	46.4%	45.7%
フェスゴ	177	351	50.4%	45.4%
アレセンサ	171	328	52.1%	47.2%
ルンスミオ	43	284	15.1%	30.3%
カドサイラ	79	165	47.9%	47.9%
アバスチン	73	137	53.3%	49.8%
パージェタ	49	111	44.1%	50.4%
Foundation Medicine	36	78	46.2%	49.4%
その他	57	101	56.4%	50.0%

【億円】	実績	期初予想		2025年 進捗率*
	2026年 1-6月	2026年 1-12月	進捗率	
スペシャルティ領域	1,205	2,388	50.5%	47.3%
ヘムライブラ	311	666	46.7%	46.4%
アクテムラ	254	462	55.0%	47.1%
エンスプリング	156	319	48.9%	45.5%
バビースモ	151	301	50.2%	45.8%
エブリスディ	78	152	51.3%	48.8%
エレビジス	44	120	36.7%	-
ピアスカイ	43	83	51.8%	43.5%
セルセプト	34	71	47.9%	52.5%
その他	134	213	62.9%	51.3%
海外	3,286	6,020	54.6%	47.6%
ヘムライブラ	1,737	3,540	49.1%	43.7%
アクテムラ	901	1,363	66.1%	54.9%
アレセンサ	313	604	51.8%	49.2%
エンスプリング	61	92	66.3%	54.0%
ノイトロジン	42	70	60.0%	51.7%
シグマート	35	24	145.8%	52.9%
その他	196	326	60.1%	41.3%

*2025年通期実績に対する2025年 1-6月実績の進捗率

為替影響額 1-6月



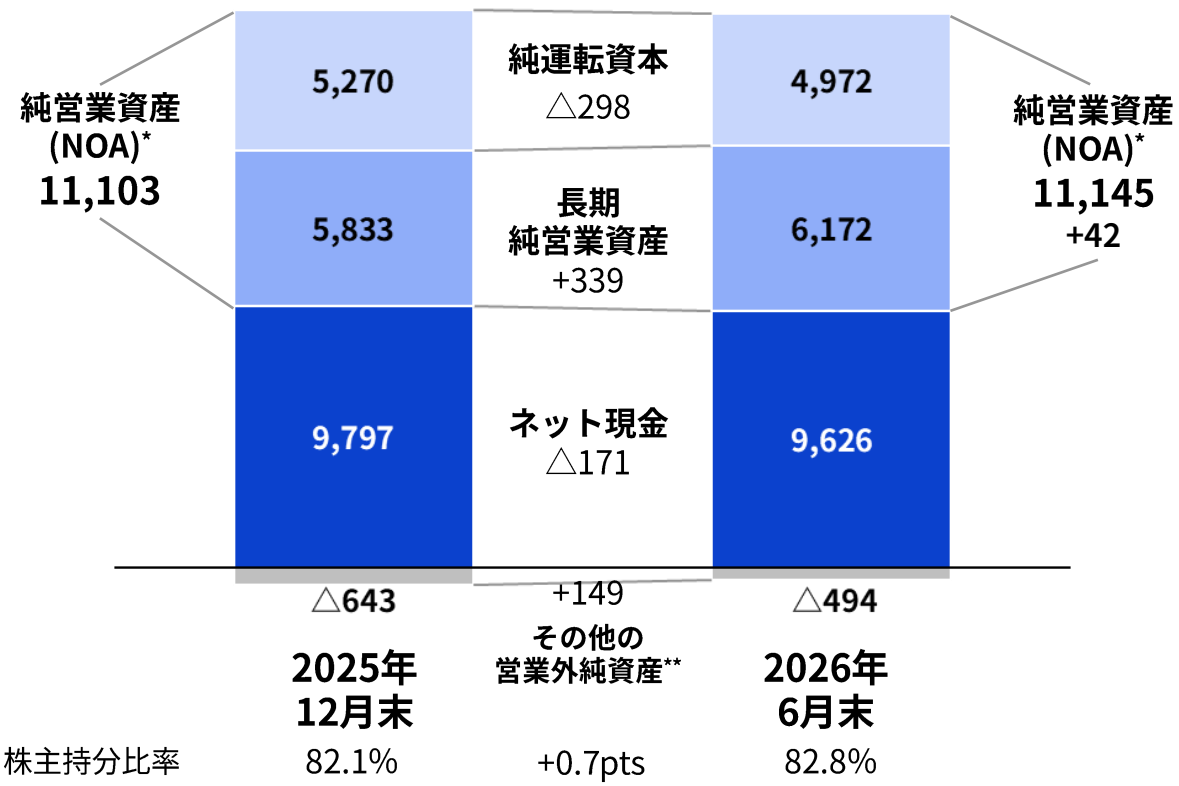
	対2025年 実績レート 【C】 vs. 【A】	対2026年 想定レート 【C】 vs. 【B】		2025年 実績レート** 1-6月 【A】	2026年 想定レート 1-6月 【B】	2026年 実績レート** 1-6月 【C】	2026年 期中市場 平均レート*** 1-6月	2026年 想定レート 通期
売上収益	+269億円	+3億円						
製商品売上高	+188億円	△4億円	1CHF	171.31円	185.20円	183.37円	200.94円	184.00円
その他の売上収益	+81億円	+7億円						
売上原価	△43億円	△0億円	1EUR	162.19円	179.00円	184.09円	184.46円	179.00円
上記以外*	△28億円	△15億円						
営業利益	+198億円	△12億円	1USD	146.56円	148.82円	150.86円	158.09円	151.00円

* 研究開発費、販売費及び一般管理費、その他の営業収益（費用）の合計
** 営業利益までの科目に含まれる外貨建取引に使用した計上レートを加重平均したもの
*** 決算期間中の市場為替レートを平均したもの

財政状態6月末 前期末比

【億円】

資産合計	24,686	△187	24,499
負債合計	△4,429	+206	△4,223
	20,257	純資産合計 +20	20,277

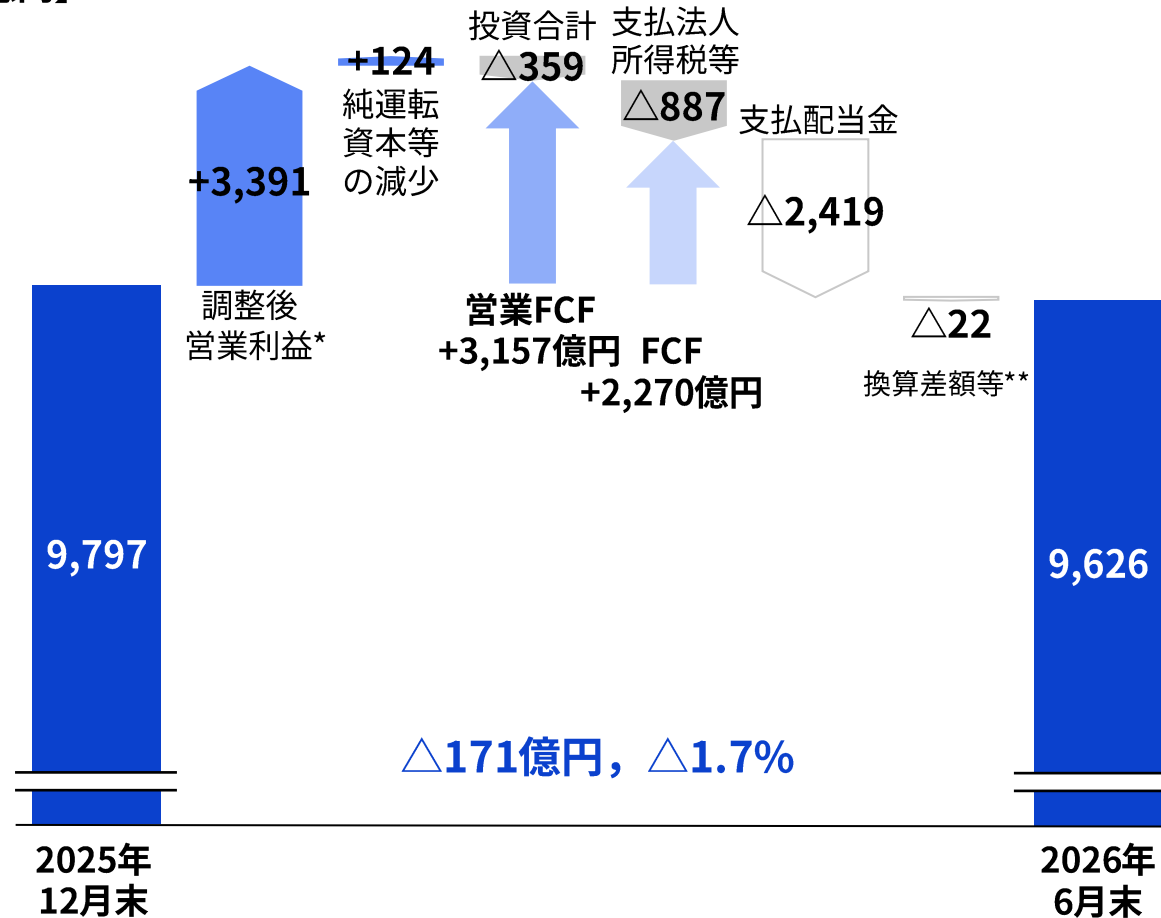


- 純運転資本の減少
棚卸資産が増加した一方で、未収入金の減少や営業債務の増加等により減少
- 長期純営業資産の増加
以下への投資を主因として有形固定資産が増加
 - ✓ 浮間事業所における低・中分子およびバイオ研究棟(UKX)
 - ✓ 浮間工場におけるバイオ原薬製造棟改造工事 (UK3)
- ネット現金の減少
次ページ参照
- その他の営業外純資産の増加
主に為替予約負債が減少

* NOA : Net Operating Assets
** 例：繰延税金資産、未払法人所得税等

ネット現金 前期末からの増減

【億円】



■ 調整後営業利益*	+3,391 億円
営業利益*	+3,196 億円
減価償却費、償却費および減損損失*	+187 億円
■ 純運転資本等の減少	+124 億円
■ 投資合計	△359 億円
有形固定資産の取得による支出	△212 億円
リース負債の支払いによる支出	△48 億円
無形資産の取得による支出	△99 億円
営業フリー・キャッシュ・フロー	+3,157 億円
■ 支払法人所得税等	△887 億円
支払法人所得税	△895 億円
フリー・キャッシュ・フロー	+2,270 億円
■ 支払配当金	△2,419 億円
■ 換算差額等**	△22 億円

* Non-Core含む (IFRS実績)

** 「換算差額等」 = 「自己株式の減少 (増加)」 + 「ネット現金の換算差額 (***)」等

*** 在外子会社の財務諸表の換算レート (ネット現金: 期末日レート / FCF: 期中平均レート) の違いから発生 (IAS第7号・IAS第21号を参考に、当社が定義)

損益 1-6月 Non-Core調整

【億円】	IFRS実績	Non-Core調整		Core実績
		無形資産	その他	
売上収益	6,633			6,633
製商品売上高	5,665			5,665
その他の売上収益	968			968
売上原価	△ 1,970	+11	+0	△ 1,959
研究開発費	△ 896	+1	△6	△ 902
販売費及び一般管理費	△ 579		+89	△ 490
その他の営業収益（費用）	9			9
営業利益	3,196	+12	+83	3,291
金融収支等	96			96
法人所得税	△ 975	△4	△25	△ 1,004
中間利益	2,317	+8	+58	2,384
EPS (円)	140.82			144.84

Non-Core調整

営業利益影響内訳

■無形資産

償却費

+12億円

■その他

事業再構築費用等

+83億円

主な投資等の現状と当面の計画

		~2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031~	投資予定額		期間*	
									総額	既投資額		
製造系	宇都宮工場	UT3：中後期治験/初期商用バイオ原薬製造							374億円	347億円	2023年	2026年 (完成)
	浮間工場	UK3（改造工事）：バイオ原薬製造							203億円	125億円	2024年	2027年
研究開発系	CPR	研究機能拡充に伴う施設移転							60百万SGD	44百万SGD	2024年	2026年
	IFReC	IFReCへの包括連携契約に基づく資金提供							100億円	93億円	2017年	2027年
	浮間事業所	UKX：低・中分子およびバイオ医薬品の製法開発機能強化							800億円	194億円	2026年	2028年
環境	環境投資**	中期環境目標2030達成に向けた設備更新等							1,362億円 (試算総額)	172億円	2022年	2032年

* 設備投資は着手年から完成予定年を表す

** 表内に記載されている投資案件の一部を含む

お問い合わせ先

広報IR部

報道関係者の皆様：メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881
E-mail : pr@chugai-pharm.co.jp
担当 : 香西、塩原、平野、宮澤、和泉

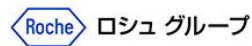
投資家の皆様：インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554
E-mail : ir@chugai-pharm.co.jp
担当 : 櫻井、島村、山田、池ヶ谷、大塚

創造で、想像を超える。



中外製薬



ロシュ グループ